

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	海岸一帯の津波警戒出場中、津波に被災した事例
3. 体験した事例の中心的要素	過去、年1回から2回の津波注意報等発令による津波警戒出場の中で、実際に津波が到達した事例を小隊長以下4名の職員は経験が無く、また津波に対する理解が浅かった。若干の津波到達が確認できても、警戒を中断することなく活動した結果、退避が遅れて津波に被災したもの。
4. 体験した事例の原因・理由	小隊長以下4名の職員は、津波に対する理解が浅く、「波が防波堤を越えてはこないだろう」、「到達までもう少し時間があるだろう」という安易な予測や判断、それらが退避の遅れる原因に繋がった。

【体験した事例の直接的原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成23年3月11日 午後4時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：海岸防波堤脇
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか)	その他：津波による被災
7. 事例体験時の活動	その他:津波警戒、[] []
8. (7の活動中)どのような作業 中に発生したか	その他：津波警戒
9. 同様の体験は、これまでにど の程度の頻度で体験していま すか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[24]歳、勤続年数[2]年、現場経験年数[1]年、階級[消防士] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[34]歳、勤続年数[16]年、現場経験年数[15]年、階級[消防司令補] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [その他:小隊長]
○当事者C	年齢[28]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[5]年、階級[消防副士長] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [機関員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	○当事者D 年齢22歳 勤続4年 現場経験3年 階級 消防士 同様の活動 過去に1.2回 任務 隊員

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	警防隊(自隊)	津波警戒出場。	
経過2	警防隊(自隊)	海岸に到着、一帯の警戒活動を実施する。	
経過3	警防隊(自隊)	防波堤まで約50cmの津波到達を確認。	
経過4	警防隊(自隊)	防波堤まで約1mの津波到達を確認。 退避を開始する。	
経過5	警防隊(自隊)	一旦停車し、再度逃げ遅れ者等を確認。	
経過6	警防隊(自隊)	退避を再開したが、数秒後に車両の位置まで津波が到達、 車両は横転し水没する。	
経過7	警防隊(自隊)	自力で車両外へ脱出、安全な場所まで避難する。脱出の際、Aが負傷する。	A負傷箇所 右耳上部切創(軽傷)
経過8	警防隊(自隊)	他の事案に出場していた車両に乗車し帰署。	車内で負傷箇所を処置。
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。避難退避がうまくいかなかつた。指揮者が適切に指示しなかつた。他隊(員)から適切な注意を受けられなかつた。その他：津波に対する知識が浅かつた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかつた。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかつた。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かつた。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躊躇したり滑りやすかつた。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた(適切な指示を与えられなかつた)。

・活動指示が得られなかつた。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあつた。	いいえ
・指示内容が実施困難であつた。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があつた。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

今回の災害を教訓にし、職員が津波を理解し活動できるように訓練等に取り組む。

(消防本部)

隊の長になる者は、隊員をよく観察し、声を掛け合うなどして恐怖心や焦りを緩和させる。

(部隊)

○装備・資機材の対策について

津波警戒出場隊は災害時優先電話(携帯型防水タイプ)を携行する。(部隊)
等、着装して活動する。(個人)

各隊員は救命胴衣

○活動環境の対策について

大規模災害対応マニュアルにそった活動を原則とし、どのような現場でも避難路を確立し、本部との情報を密にする。
(消防本部・部隊)

○指揮・情報伝達の対策について

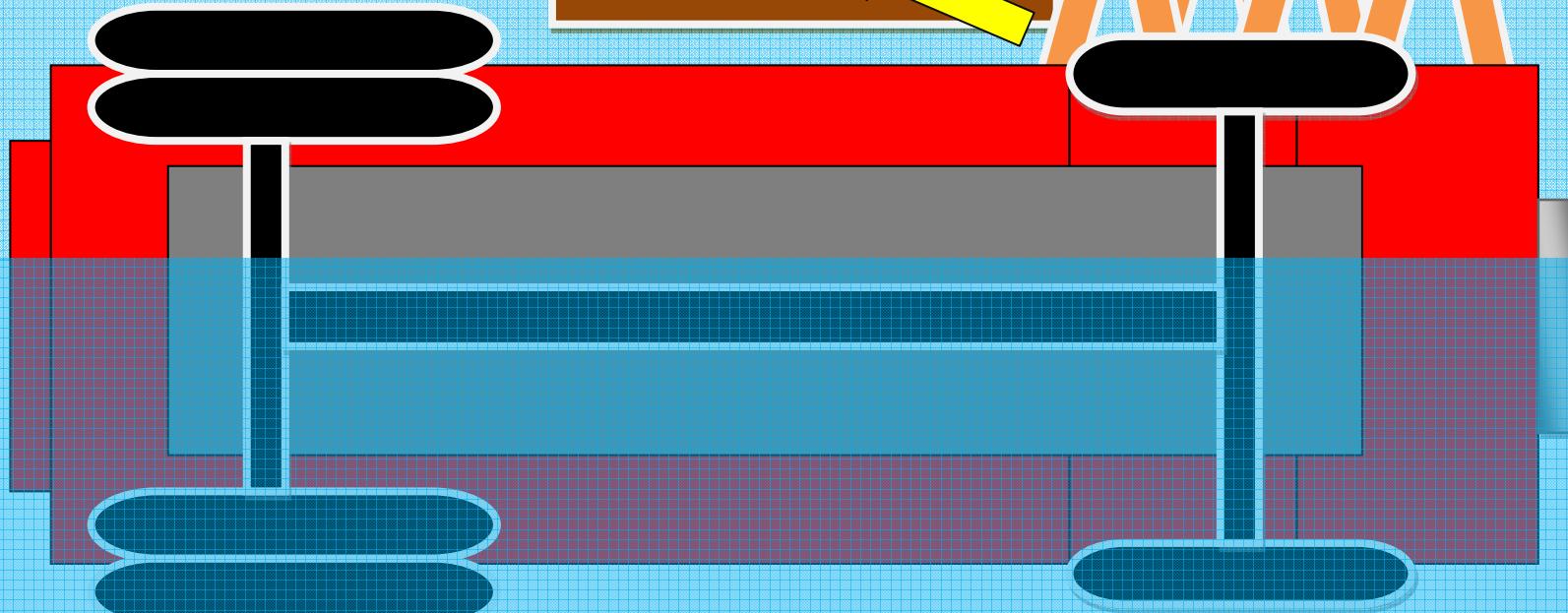
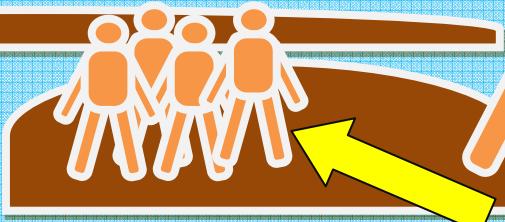
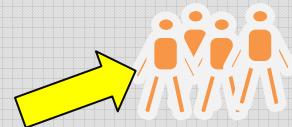
どんなに小さい変化や情報も出場中の全職員が共有すること。(消防本部)

隊の長になる者は、自分達の安全を確実に保持できるように活動指揮をとること。(部隊)

自隊がまだ安全であっても、他の隊が退避を開始した時点で、自隊も退避を開始すること。

(部隊)

県道



走行路

海水

防波堤
海岸